



将来の避難・避難所運営のあり方を考える「産官学連携プロジェクト」にて  
**避難所模擬運営を実施**します。

将来起こりうる災害時の避難および避難所運営のあり方について学ぶ本学の学生が **2040年の避難所運営**をテーマに、模擬運営（模擬訓練）を1月14日（土）に実施します。当日は外部機関（右京区役所・右京消防署）および地域の方々にご協力いただき、学生と官民が協働した避難所開設・運営を行います。

京都光華女子大学（学長：高見 茂）では、地域や企業と連携して、実際に社会で起きている問題や課題に取り組み、社会に出たときに役立つ知識や技術・考え方を養う実践型の科目「産官学連携プロジェクト」を開講しています。今年度のプロジェクトの1つでは、「データで見る人口減少社会と将来の防災まちづくり\*」（担当代表教員：佐藤 嘉洋）をテーマに、人口減少・少子高齢化が進む日本の将来を人口データから明らかにし、将来起こりうる災害時の避難および避難所運営のあり方について学ぶことを目的としています。

このたび、本科目を履修する学生10名の提案に基づく避難所の模擬運営を1月14日（土）に実施します。当日は外部機関（右京区役所・右京消防署）と連携し、地域の方々にもご協力いただいて、「2040年の避難所運営」をテーマとしたロールプレイング形式での模擬訓練を行います。代表教員の熊本地震等での実体験をもとに作成した、避難所運営の中で発生が想定される具体的な困りごとや必要な判断・配慮について、学生どうしが協力し、時には様々な立場の方々の助けを得ながら困難を乗り越える体験を行います。その体験を通じ、大学生の防災・減災に関する意識向上を図ることはもとより、今後の避難所運営の課題について地域の方々にも実感を持った気づきや学びを得ていただくことを目的としています。

報道各社におかれましては、是非、取材のご検討をよろしくお願い申し上げます。

\*「データで見る人口減少社会と将来の防災まちづくり」の概要【データサイエンス×防災】

近年では大規模な災害が頻発しており、将来的には南海トラフ地震や首都直下地震などの甚大な被害が想定されている災害の発生も懸念されています。災害発生時には「自助・共助・公助」の3つが重要とされますが、これから地域社会の人口構成が大きく変化する中で、そのあり方も見直す必要があります。本授業を通して統計データから社会の将来像を明らかにするデータ分析力に加え、外部機関と連携し、避難・避難所運営に関する提案書の作成や避難所の模擬運営を行うなど、企画力・実践力を身につけることを目指します。

■ 「産官学連携プロジェクトd」避難所模擬運営 ■

【日 時】1月14日（土）13:00 開始（16:00頃終了予定）

【場 所】京都光華女子大学第一体育館（〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町38）

【協 力】右京区役所、右京消防署、近隣地域にお住まいの方々

「取材に関するお問い合わせ」

京都光華女子大学／短期大学部 入学・広報センター 担当：橋詰

[TEL] 075-312-1899 [FAX] 075-312-5594 [E-mail] hkk@mail.koka.ac.jp

[URL] <https://www.koka.ac.jp/>

Well-Being を実現する健康・未来創造キャンパスへ



京都光華では、これまで80余年にわたって仏教精神に基づく女子教育に取り組んできました。その根幹にあるのは校訓「真実心」。世界が目指す「持続可能な社会」に通じる重要な考え方です。私たちは、この理念によって立ち、すべての人が健やかに暮らせる“Well-Being”な未来の実現を目指し、学生一人ひとりに、そして地域に寄り添い、社会の要請に応じてまいります。